

OBP クリニックだより

第 44 号(2019 年 7 月号)

風疹

風疹の流行が続いています。

2018 年の風疹患者報告数は 2,917 人で、そのうち、2,857 人は 7 月 23 日以降の報告でした。

2019 年 6 月 9 日までに約 1,700 人の報告があり、依然として流行が続いています。

患者の多くは、30～50 代の男性で、都市圏を中心に報告されています。

これは、過去に予防接種を受ける機会がなかったか、一度しか接種を受けていないことにより、免疫が確実についていないことが要因と考えられています。

妊娠中の女性（特に妊娠 20 週頃まで）が風疹に感染すると、先天性風疹症候群の子どもが生まれてくる可能性があるため、注意が必要です。

風疹とは

風疹ウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症で、風疹への免疫がない集団において、1 人の患者から 5～7 人にうつす強い感染力を有します。

感染経路

患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛沫感染」です。発疹が出現する前後 1 週間程度は、人に感染させる可能性があります。

症状

通常 2～3 週間（平均 16～18 日）の潜伏期間の後、発熱、発疹、リンパ節腫脹が出現します。感染しても明らかな症状が出ない場合があります（15～30%）。
症状は、子どもでは比較的軽いことが多いものの、まれに脳炎、血小板減少性紫斑病などの合併症が発生することがあります。
また、大人がかかると、発熱や発疹の期間が子どもに比べて長く、関節痛がひどいことが多いとされています。一度罹患したら、大部分の人は生涯免疫が付きまします。

妊婦への影響

妊娠初期（妊娠 20 週頃まで）の妊婦が風疹に感染すると、胎盤を介して胎児が感染し、眼や心臓、耳などに障害を持つ（先天性風疹症候群）子どもが出生することがあります。（妊娠 1 ヶ月の場合 50%以上、妊娠 2 ヶ月の場合 35%）

治療

特別な治療法はありません。症状に応じた対症療法がおこなわれます。

予防

有効な予防は、風疹ワクチンの接種です。先天性風疹症候群の発生を防ぐために、妊婦とそのパートナーの予防は特に重要です。予防接種法に基づく定期予防接種が行われています。

制度を有効活用しましょう

- ◆ 厚生労働省では、2019 年度より 3 年間、風疹の定期接種を受ける機会がなかった男性（1962 年 4 月 2 日～1979 年 4 月 1 日生）に対して、予防接種法に基づいた風疹の第 5 期の定期接種を行うことを決定しました。対象となる男性は、2022 年 3 月末までの間、市区町村により送付されるクーポン券を使用すれば、原則無料で抗体検査及び定期接種を受けられます。
- ◆ 妊娠を希望している女性や同居家族を中心として、風疹の抗体検査費用の助成を行っている自治体が多くあります。自治体ごとに補助の有無や補助の額などのあり方が異なるため、事業で検査可能な医療機関を含めて、居住地域の制度を確認してみましょう。

当クリニックでは、風疹抗体検査、風疹ワクチン予防接種を実施しています

- ◆ ワクチンの予防接種は予約制になります。希望される方は、事前に当クリニックまでご連絡ください。
- ◆ 健康診断と一緒に、抗体検査を希望される場合は、事前に当クリニックまでご連絡いただくことをお勧めします。当日のお申し出でも検査はありますが、お時間をいただく場合がございます。

[TEL:06-6941-8693](tel:06-6941-8693)（外来受付）

医療法人財団医親会

OBP クリニック

(健診) 06-6941-8687

(外来) 06-6941-8693

(HP) <http://www.obp-clinic.jp>

診療科目

内科（循環器・糖尿病・呼吸器・消化器・肝臓・脳循環・腎臓）、乳腺・甲状腺外科、眼科、皮膚科

